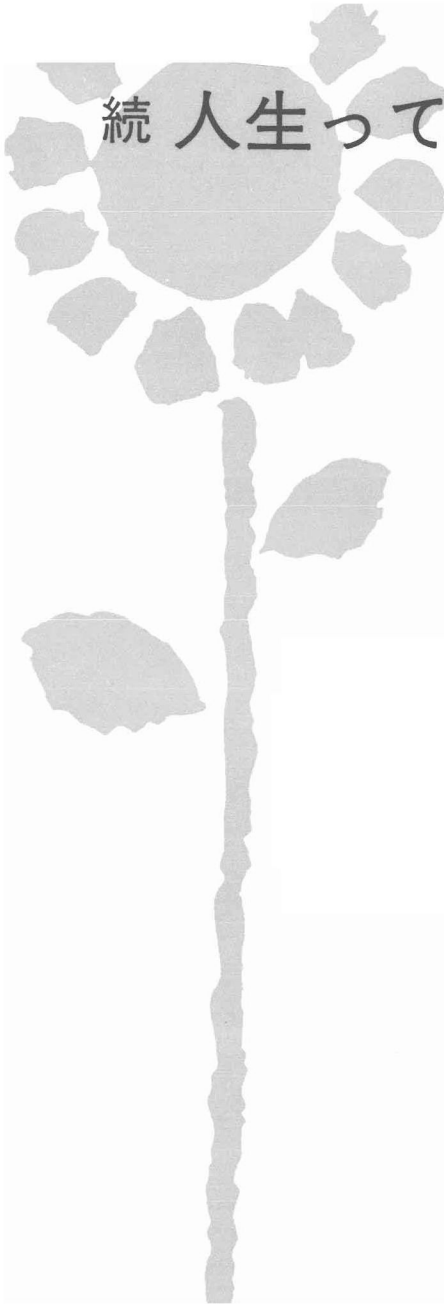




続人生ってなんだろ

松田道雄



続 人生ってなんだろ

松田道雄

筑摩書房

続 人生ってなんだぞ

N. D. C. 152 筑摩書房

214 ページ 18. 8c

著者略歴

1908年、茨城県に生まれる。京都大学医学部卒業。評論家。著書に「私は赤ちゃん」「君たちの天分を生かそう」「恋愛なんかやめておけ」「人生ってなんだぞ」「松田道雄の本全16巻」などがある。

1974年12月15日 第1刷発行

1987年12月25日 第7刷発行

著 者 © 松 田 道 雄

発 行 者 関 根 栄 郷

発 行 所 株式会社 ちく ま しよ ぼう
筑 摩 書 房

東京都千代田区神田小川町 2-8

電話 東京 (03) 291-7651 (営業)

294-6711 (編集)

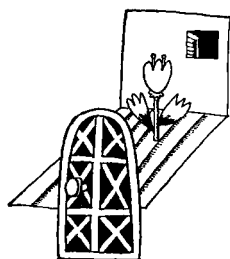
郵便番号 101-91/振替 東京4123

■装幀・柄折久美子 大日本法令印刷・積信堂製本

ISBN4-480-8801-5 C8012

乱丁・落丁本の場合は、御面倒ですが小社読者係宛に御送付下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

続
人
生
っ
て
な
ん
だ
ろ



I 生きること

運命について……………	2
自由ということ……………	4
コンプレックスの療法……………	6
自分の時間をもて……………	8
感傷的……………	10
人間としてのしなやかさ……………	12
正直ということ……………	14
遺伝のなやみ……………	16
行きづまったとき……………	18
哲学とは何か……………	20
人間と欠陥……………	24
かけごととかけ……………	26

二重人格……………	28
もてはやされること……………	30
思想というもの……………	32
気が弱い……………	34
らく　だらく……………	36
いばるということ……………	38
目的と手段……………	40
責任というもの……………	42
死んだらどうなる……………	44
死んだら万事おしまいでも……………	46
安楽死……………	48
ニヒリズム……………	50
脱線したい気持……………	52
自殺なんかやめておけ……………	54

Ⅱ 学校のこと

中学生らしさ	58
きらいな先生	60
一夜漬け	62
中学生の勉強室	64
授業五日制	66
私立か公立か	68
乱暴をする若者	70
リンチ事件	72
非行生徒	74
あだ名について	76
新学年に	78
修学旅行	80

夏休み……………	82
夏休みと宿題……………	84
夏休みとテレビ……………	86
デートにきてくれない……………	88
ガールフレンド……………	90
ある家出事件……………	92
ひとの本 自分の本……………	94
外国語について……………	96
先輩について……………	98
生徒の無気力……………	100
学校がおもしろくない……………	102
中学生の自殺……………	104
受験のロボット……………	106
職業をえらぶ……………	108
おとなはだめだ……………	110

Ⅲ 日常のこと

友人について……………114

性教育……………116

文章について……………118

読書術……………120

小説家になりたい……………122

小説がきらい……………124

推理もの……………126

悪筆と達筆……………128

手紙のだし方……………130

少年の正月……………132

寒稽古……………134

おだちん……………136

おしゃれと流行	138
個性的であること	140
ふつうの人	142
健康法	144
不眠症について	146
机のひきだし	148
音楽のすすめ	150
コレクションについて	152
映画について	154
偉人伝	156
敬語について	158
親と子	160
親孝行	162
おとなにわからないもの	164

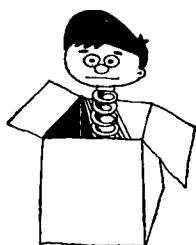
Ⅳ 社会のこと

むかしといま……………	168
文明の害……………	170
あぶない魚……………	172
節約ということ……………	174
道徳と規則……………	176
タレント志願……………	178
徒弟時代……………	180
お金と欲望について……………	182
差別について……………	184
週刊誌……………	186
未婚の母……………	188
女性解放……………	190

善と悪……………	192
ボランテェア活動……………	194
キリスト者……………	196
太平洋戦争について……………	198
東南アジアでおこったこと……………	200
高度成長のできたわけ……………	202
地球満員……………	204
世界の平和……………	206
権力について……………	208
革命について……………	210
さいごに……………	212
あとがき……………	214

I

生きること



運命について

君は運命というものを信じるか。

どんなに人間が努力しても、なるようにしかならないと思うか。

人間の幸福や不幸は、神さまがちゃんときめていてくださるというかんがえ、神さまでないにしても、歴史のうごきにはきまった法則があって、人間はそれにしばられているというかんがえを信じている人は少なくない。

中学生ぐらいの年ごろで、そういう運命を信じるのは、感心しない。

一生けんめいやっても、さぼっていても、結果はきまっているんだと思ってしまおうと、なんにもする気がなくなってしまう。

そこをかんがえてか、どんな運命論でも、人間の努力の余地をのこしている。

大すじは神さまがきめてくださるにしても、いいことをした人間のほうが、わるいことばかりしていた人間より、死んでから住み心地のいいところにいけることになっている。

歴史の法則がきまっているにしても、努力してこの法則をみつめ、法則にさからわぬように



すれば、幸福になれることになっている。

私は神さまも歴史の法則も信じないけれども、医者として、人間のからだやそのはたらきが、遺伝因子で、ある程度決定されていることを信じる。

それだからといって、人生が遺伝できまっているとは思わない。

走るのがはやい家系と、おそい家系とは、たしかにある。だが走るのがはやいのでランナーになった人も、練習によって記録がよくなることも事実だ。

練習のときの記録よりも、はれのレースのときの記録のほうがいいことは、めずらしくない。どうしても勝ちたいという気持が、なにかをプラスするのだ。

おなじようにはげしく練習し、おなじように闘志どうしをもやしても、記録がどうしても、それ以上あがらないということもある。それ以上は遺伝的にきまっている筋肉きんくの組織や心臓のはたらきがゆるさないので。

ほかのランナーにまけても、その記録は本人にとってオリンピック・レコードだ。それも練習と闘志によって到達されたものだ。遺伝的になにが決定されているかを知るためにも、練習と闘志とが必要なのだ。

そこまできたら運命への降伏こうふくでなく、運命との和解ができたと思うべきだろう。

自由ということ

私はこのところ、人生と自由ということについてかんがえている。

自由ということを私は、自分が自分の主人になることだとかんがえる。自分の生き方について、人からとやかくいわれないことだ。

六十五年生きてきて、私はいつ自由だったかと思いかえてみると、幼児のころと、年をとって医者をやめて、ものかきを仕事にしている現在とが、自由のように思う。

幼児のとき自由だったのは、朝おきてから寝るまで、きまったことをしないでよかったからだ。毎日、友だちとそとであそんでいたが、あそぶ場所も、なにをしてあそぶかも、その日の天気や、道路の状態で好きなようにきめられた。おおぜいであそぶ必要のあるときは、ささいにいけば何人でもあつまった。

いまの幼児が幼稚園にかよって、「お勉強」をしているのと、かなりちがっていた。その幼児のときの自由と、現在の生活の自由とにているところがある。

医者をしていたときとちがって、朝、何時におきないといけないということがない。好きな



ときに好きなところへいける。けれども幼児のときのように、友だちをさそって、いっしょにあそぶわけにはいかない。

好きなときに好きなことをかけばいいわけだが、職業となると、そうはいかない。注文によってかくのだから、あまり好きでないことを、きめられた日までにかかねばならぬこともできってくる。それでも、一種の隠居いんきょだから、学校にいつていたころや、医者をしていたころよりは自由だ。

学校にいつていたころは、好きな友だちと好きなことをしていたこともあったが、いつも自分が自分の主人であったとはいえない。授業や試験でしばられていた。

医者になってはたらいでいたときも、好きな本をよみ、好きな映画をみて、たのしむ時間があったが、家族と生活できる費用をかせがねばならなかったから、職業にしばられていた。

それだから、ほんとうの自由は、人生のはじめと、おわりにちよっぴりあることになる。

もっとも現在は、幼児は自由でないから、年をとって隠居しないと自由にならない。

いま私は隠居の自由を、たいへんたのしいものと思っている。それをたのしめるのは、学校にいつていたころ、医者をしていたころ、わずかの時間でも、自分が自分の主人になる習慣をつけていたからだと思う。